

説明書（手術・麻酔）

私は、患者 様の手術・麻酔について次のとおりに説明しました。

1.現在の病状・手術の必要性・今後の見込み。

両側滲出性中耳炎があり難聴の原因となっています。外来で経過観察していましたが、改善しませんでした。鼓膜チューブを挿入することにより症状の改善を目指します。チューブは術後一定期間(数か月以内)留置することになります。中耳炎が改善したら外来でチューブを抜去します。チューブにはいくつかの種類がありますが、今回は短期留置型を挿入する予定です。チューブによる一定の効果が得られる前の早期脱落の場合は再挿入が必要なことがあります。

2.手術の名称・方法

全身麻酔下両側鼓膜チューブ挿入術

手術用顕微鏡を用いてすべての手術を行います。鼓膜切開後鼓膜チューブを挿入します。皮膚外切開はしません。

手術は院長自らが行います。手術時間は10分程度です。全身麻酔は麻酔専門医が行います。

3.上記に伴う合併症の可能性・危険性

- ①特に手術で問題となることはありませんが、人により軽いめまいやみみなりが一過性に起こることがあります。
- ②術後の感染に注意する必要があるため、抗生剤を短期間服用します。
- ③術後の痛みはほとんどありません。

平成 年 月 日

小林耳鼻咽喉科内科クリニック 院長小林謙

承諾書（手術・麻酔）

私は、現在の病状及び手術・麻酔の必要性とその内容、これに伴う危険性等について十分な説明を受け、理解しましたので、その実施を承諾します。なお、実施中に緊急の処置を行う必要が生じた場合には、適宜処置されことについても承諾します。

平成 年 月 日

患者氏名（署名）

同意者氏名（署名）

患者との続柄